

緑肥作物の導入と効果—Ⅳ

桑園の生産向上に緑肥作物

千葉研究農場 兼子達夫

- 緑肥作物のすき込みによって桑の生育は旺盛になり、葉が繁茂し、堆厩肥施用と同様の効果が得られる。
- 緑肥作物（エン麦、ライ麦等）を冬期間に栽培すれば、春に5～6t（10a当たり）の生草量が生産され、これらをすき込むことにより堆厩肥約2tに相当する有機物が補給される。
- 桑の畦間に多年生牧草を栽培し、随時刈り取りを行い、桑の株元に敷草すると有機質肥料となり、また除草の手間も省け土壌流亡防止にも役立つ（草生栽培）。

緑肥作物の栽培利用基準

種 類	品 種	播種時期	10a 当 り播種量	播種法	施肥量(10a当 り成分量)	すき込み時期	利 用 目 的	
イ ネ 科	エン麦	太豊	10上—10下旬	kg 7—10	条播 条播	チッソ8 リンサン8 カリ8	4上—4下旬 3下—4中旬	} 有機質の補給
	ライ麦	春一番	10上—11上旬	7—10				
マ メ 科	ベツチ	コモン ヘアリー	10上—10中旬	4—6	条播 条播 点播	チッソ2 リンサン8 カリ8	4上—4下旬 4上—4下旬 4上—4中旬	} 土壌肥沃化 有機質補給
	ソラマメ		10上—11上旬	7—10				
	ソラマメ		10上—11上旬	7—10				
牧 草 類	オーチャード	ハイキング	} 9上— 10上旬	} 混播 3—5	畦間に 広幅播 (散播)	基 肥 チッソ6 リンサン10 カリ8 追 肥 チッソ10 カリ10	刈草（敷草） 4—10月 耕 起 9—11月	} 草生栽培 土壌流亡 防止
	トールフェスク	ケンタッキー31						
	ラジノクローバ	カリフォルニア						
	アカクローバ	ケンランド						

緑肥作物栽培利用上のポイント

- ☒ 緑肥作物は桑の株元から50cm以上はなして畦間に播種する（すき込み時に桑の芽を傷めないように配慮）。
- ☒ 緑肥作物は早めに播種して十分生長させ、春早めに刈り取り鋤き込むのがよい。
- ☒ 刈り取りには耕うん機回転式草刈機，MR45草刈機等を用いると、人力の約10倍の能率化ができる。
- ☒ 緑肥作物（生草）を畜産農家へ提供し、畜産農家から堆厩肥をもらう結びつきも有益。

有機質施用量と桑の生産量（10a当たり）

千葉県蚕業試験場

区 分	収 葉 量 (年 計)				土 壌 中 の 腐 植 含 量			
	昭 33	昭 34	昭 35	昭 36	昭 33	昭 34	昭 35	昭 36
無 堆 肥 区	kg 679	kg 414	kg 540	kg 930	% 2.73	% 2.19	% 2.31	% 3.31
堆肥1,875kg施用区	1,226	935	1,029	2,037	3.19	6.09	9.26	10.26
堆肥3,750kg施用区	1,364	959	1,259	2,190	2.84	10.92	10.59	13.57

注) 土壌中の腐植含量は7～8%必要であり、堆肥施用区に累積効果が見られる。